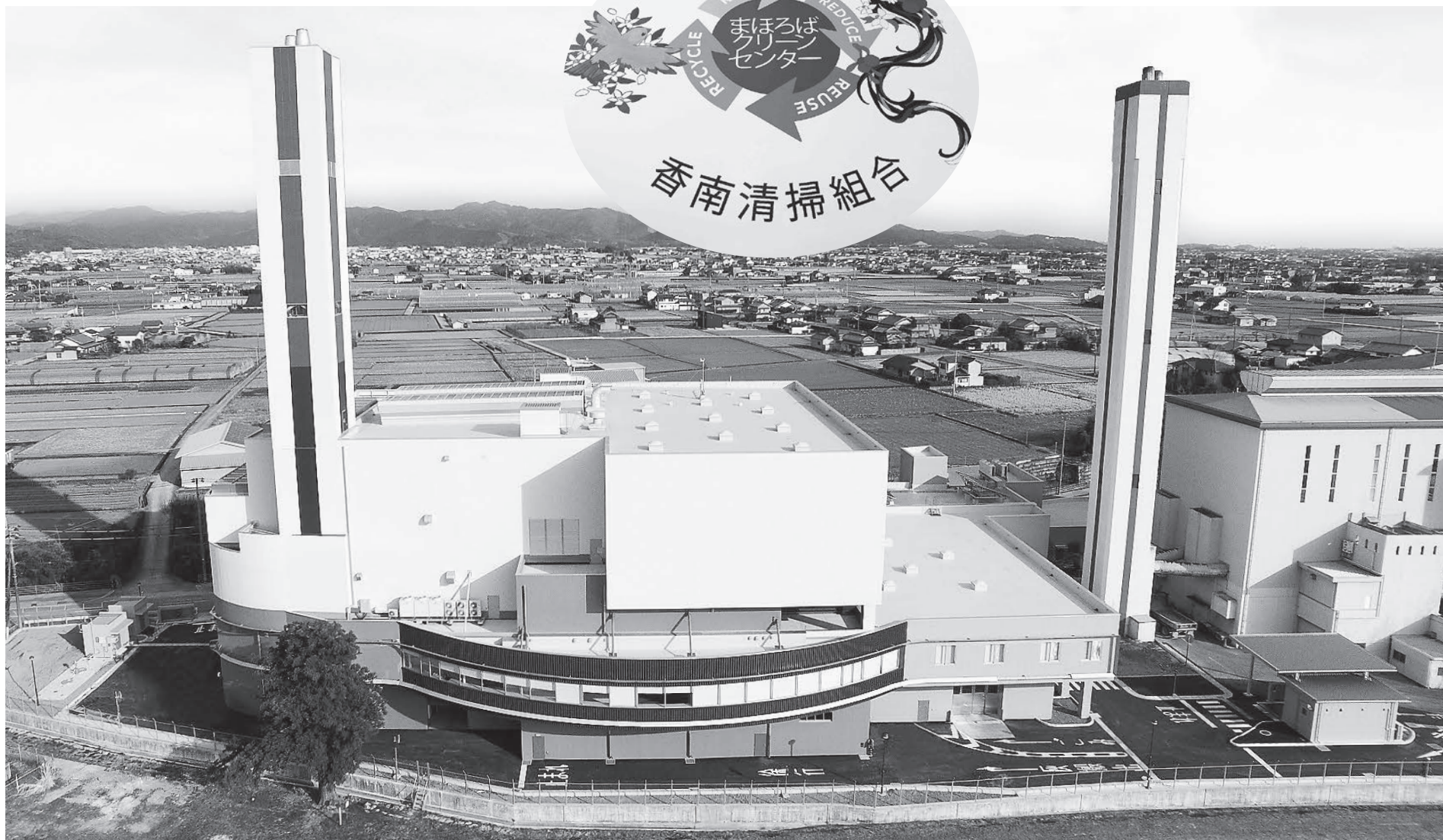


まほろばクリーンセンター

特集



今回の特集では、南国市・香南市・香美市で組織された香南清掃組合の最新の一般廃棄物処理施設「まほろばクリーンセンター」を紹介します。

通常ごみ焼却場と呼ばれるその建物は、南国市廿枝、国分川のほとりに建設され、今年3月に竣工しました。ここにそびえ立つ59mの煙突は、比江廃寺塔の高さを示す32mで色分けされています。樹齢200年の南国市天然記念物「おさばい杉」に守られ、まさに土佐のまほろばを見渡しているようです。壁面に描かれた3市の鳥・花・木のシンボルマークと、隣に仲良く並んだ、今は役目を終えた2代目焼却場の煙突が、遠くからでもその位置を私達に教えてくれます。

昭和49年に1代目焼却場がこの地に建てられて以来、2代目が平成4年から、そして今回と、同じ敷地に3代にわたってごみ焼却場が建設されるのは全国的にも珍しいそうです。地元と信頼関係を築くよう、組合としても努力を重ねてきたからでしょう。「周辺5地区の地元住民の理解と協力があってこそで、感謝している」というお話を聞きました。

毎日の暮らしの中から出される“ごみ”がどのように処理されているのでしょうか。費用はどれくらいかかり、どんな工夫をしながら運営されているのか、また、ごみを出す側の私達市民が気を付けなければいけないこと等々、お話を伺ってきました。

ごみ収集車によって運ばれてきたごみは計量され、プラットホームからごみを落とします。プラットホームは自動ドアとエアカーテンでごみのおいを防ぎ、週に一度ヨーグルトと納豆を原料とした消臭剤をごみピット内に噴霧しています。

ごみピット（回収されたごみを入れておく場所）には7日分のごみが入ります。ゴミクレーンでごみをかき混ぜ、燃やしやすい、焼却炉で燃やします。職員の方の話では「炉は生き物」だそうです。同じように管理していてもごみの焼け方、一酸化炭素濃度、窒素酸化物濃度等に違いがあり、それぞれに癖があるということでした。

高温でごみを燃やすため、プラント（焼却施設）を長い年数、使うことは難しいので、補修工事、定期点

施設の概要 ～炉は生き物～

まほろばクリーンセンターは南国市廿枝にある一般廃棄物処理施設です。ここでは南国市、香南市、香美市のごみを処理しています。昭和49年に建てられていた施設跡地に平成29年3月に完成しました。新しい施設は周辺の環境に調和した色やデザインを取り入れました。南海地震や川の氾濫など自然災害にも備えるため、気密ドアを採用し、施設の心臓

部を2階に集約しています。また地域の避難場所として活用できるようになっています。

この施設では11万人分のごみを受け入れることが可能ですが、負担金は市の人口やごみの量で決まるので、他の市よりも人口の多い南国市が一番多く負担金を払っています。ごみを安全に処理するために最新鋭の設備を備え、運転はコンピュータで自動化されています。施設管理は16名で行っており、一班4人編成の2交代制で、24時間ごみ処理の管理にあたっています。



モニタールーム